

審議（会議）結果

審議会等名称

第9回神奈川県県土整備局指定管理者選定審査委員会都市公園部会

開催日時

令和3年7月16日（金）14:00～17:00

開催場所

神奈川県庁新庁舎12階県土整備大会議室

出席者【委員長・副委員長】

浦田 啓充【委員長】、飯島 健太郎【副委員長】、岡本 由美子、青木 利太、川島 裕子

次回開催予定日

令和3年8月3日

所属名、担当者名

都市公園課 計画グループ 中島

電話番号 045-210-6221（直通）

ファックス番号 045-210-8883

掲載形式

プレゼンテーション及びヒアリングの部分については議事録、選定評価の部分については議事概要

議事概要とした理由

本会議は、面接審査のうち、提案に係るプレゼンテーションと質疑応答については、「公開」とし、その後の「評価」を行う「協議」の部分については、指定管理者の募集・選定等に支障があると考えられることから、非公開により運営されたものである。

議事録を掲載することにより同様に指定管理者の選定に支障があると判断されることから、議事概要とした。

審議（会議）経過

1 会議の公開・非公開について

第8回委員会の決定に基づき、本会議の面接審査のうち、提案に係るプレゼンテーションと質疑応答を除き非公開とした。

2 応募団体によるプレゼンテーション及びヒアリングについて

(1) 相模三川公園① 神奈川県公園協会・サカタのタネ グリーンサービスグループ

(委員) 令和元年度に台風の被害があり、相模川上流の宮ヶ瀬ダムでは、放流をするかしないかで夜中まで判断が続き、周囲にも影響を及ぼした。そうした視点から、例えば、上流のダムとの連携や夜中でも対応をすることができるのかどうか。また、海老名駅に公園への案内はあるのか確認したい。

(応募団体) 相模川の上流には城山ダムがあり、放流による影響が大きい。令和元年の台風では、夕方ごろ緊急放流を行い、冠水した。ダムの放流には注意していかなければならないので、連携を図っていききたいと考えている。

案内については小田急と連携しており、駅からの案内はしっかりやっていききたいと考えている。

(委員) 流域連携の協力について、規模感を教えてほしい。周辺の小学校に公募を行い、見学会に連れていくような形か、あるいは、ホームページ上で募集をかけるような形なのか。

(応募団体) 公園にコーディネーターを配置し、周辺の小学校等に聞き取りを行いながら、基本は公募する形でやっていきたい。流域連携については、川から出たプラスチックごみが海に流れてしまうというような環境面から、SDGsと絡めた学習を合わせてやっていききたいと考えている。また、河川の防災学習の場も設けていきたい。

(委員) YouTubeチャンネルについて、これはライブによる配信か。映り込んではいけないものの対策をどのように行っていくのか。

(応募団体) ライブと録画の両方がある。イベントについては、ライブ配信を行いたいと考えており、他公園で実績もある。シミュレーションをしながら、脚本のようなものを用意して、対処していく。

(委員) 子育て支援の中で、来園退園情報システムとあるが具体的にどのように行うのか教えてほしい。収支計画を見ると、収入が年間3万円で、指定管理者の支出が初年度は42万円、以降は30万となっているが、最初に大きな設備投資はいらぬのか。また、三川FunPlaceは原則無料とあるが、三川Schoolについては、有料なのか。

(応募団体) 来園退園情報システムについては、全国8000か所で活用されているシステムを使い、全国にシェアもされている。基本的にはWi-Fiの費用とシステム使用料がかかるが、SDGs積立資金により運用する予定である。カードを活用し入退室管理が容易にできる。システムで何時に帰してほしいとの親からの希望も聞くことができ、それで声掛けを行うことができる。三川Schoolについて、教材費の実費負担相当を考えている。

(委員) イングリッシュガーデンが奥まった場所にあり、分かりにくい。施設自体は素晴らしいのもったいないので、認知度向上に関して取組はあるか。

(応募団体) まずはゲートの植栽に手を入れていききたいと考えている。また、三川チャンネルでアピールをしていきたい。提案書の中に詳細を記載させていただいている。

(委員) 学童保育との連携だが、今回、公園を学童保育そのもととして運営をするということか。それとも、学童保育の指導員の方が公園に連れていくことを想定しているのか。

(応募団体) 提案書に記載させていただいているが、子育て支援の仕組みを3つに分けている。そのうち学童保育については、学校で遊ぶスペースや広場が少ないと思われるので、そういった場として公園を活用していただきたいと考えている。

(委員) 技術者の配置について、公園協会は様々な公園で管理を行っているが、公園管理運営士の1名は、常駐できるのか。足りなくなるのではないかと懸念している。また、小田急との連携は、具体的にどのようなことを考えているか。

(応募団体) 常駐することはできる。小田急電鉄は、小田急沿線の公園とまちづくりを一緒にやっっていこうという考えのもと、連携を行っている。海老名では、小田急のいろいろな施設ができており、駅からハイキングといったような連携やPRを行っていききたい。座間谷戸山公園では、SDGsの谷戸山学校を提案させていただき、そこは、里山の学校としているが、三川では河川の学校として小田急と連携していききたいと考えている。

(委員) 公園コーディネーターが地域のニーズを汲み取るとのことだが、事業の提案もするのか。

(応募団体) そのとおりである。

(2) 相模三川公園② アメニス相模三川グループ

(委員) 巡回警備のやり方では、独自にミックス巡回ということを提案している。回数や人員、費用、内容をうかがいたい。また、現在の障害者雇用の状況と、不足があれば対策や今後の雇用計画を聞きたい。

(応募団体) ミックス巡回は仕様書以上の巡回を行うということ。常駐職員の巡回用のシフトを組んでいる。場所によって異なるが、平均すると一日5、6回くらいになる。巡回ごとに確認する視点もそれぞれ異なる。常勤職員の勤務時間内で、費用も常駐職員の範囲で賄う。

障害者雇用について、法定雇用数に少し足りず、障害者雇用納付金を支払っている状況である。現状でも、相模三川公園では知的障害者が働いている。今後も雇用の枠を増やしていきたい。

法定雇用数達成の時期は、未定である。

(委員) 公園の利用者数が増加しており、一定の成果が上がっている。一方、利用者が増えるに気になるのが熱中症対策である。海老名の夏は暑く高温になる。同時に5人倒れるなど、そういった事態も起こりうると思うので、通常の急病人対策のプラスアルファが必要ではないか。そのあたりの対策はあるか。

(応募団体) 公園管理事務所は広く、冷房も効くようになっており、急病人の休むスペースは確保できる。

(委員) 熱中症患者の発見の仕組みはどうしているか。巡回を工夫しているのか。

(応募団体) ハード面では、監視カメラが園内全域に配置されており、急病人等を発見しやすい体制になっている。

(委員) 子どもを対象にしたサニースクールを従来から行っているということで、登録会員を対象としているが、費用はどれくらいか。附属書類の事業計画には駐車場のみのようだが、サニースクールの収支はどうなっているのか。

(応募団体) サニースクールは有料の年間のプログラムである。一か月7,000円で募集している。職員の人件費や用具代、講師謝礼などの費用に充てている。単体での収支費用は、少し赤字となっている。県から利用促進業務と認められており、公園管理業務として、公園の管理費用に計上している。

(委員) 7,000円は、どこの収入に計上しているのか。

(応募団体) 利用料金収入である。

(委員) 募集人数の20人とあるが、それくらいが講師の目が行き届く人数ということか。

(応募団体) 収支的にはもう少し増やしたいが、一人の講師の目の行き届く人数が20人程度と考えている。

(委員) サニースクールについて、年間48回、月4回、月7,000円の費用ということだが、具体的な成果はあるのか。また、相模三川公園のファンクラブの中で、エココインの発行とあるが、その内容は何か。

(応募団体) サニースクールについて、効果を数値化するのは難しいが、例えば、運動能力が向上した、普段落ち着きない子が落ち着くようになった、という喜びの声をもらっている。具体的なプログラムの例としては、小さな畑を作って様々な作物を栽培したり、かけっこ教室のような運動、自然観察会に取り組んでいる。小学生低学年向けだが、リピート率が高い。小学校3年生で終わってしまうのが残念、という声ももらっている。

エココインについては、公園内の発生材をエココインとして配布している。ボランティアの参加者などに配布し、イベント時などや物の貸し出しのときに使用できるようにしている。課題として、ボランティアに来てくれた人を中心に配布していることや、明確な活用目的がないため、あまり広がっていない。今回、ボランティア団体を母体として公園利用時に使用できる仕組みをつくることで、流通を図りたいと考えている。

(委員) 産学連携について、聞きたい。相模三川公園ファンクラブというものを提案されている。現在でも4団体と連携しているとのことだが、高齢化が進行しているということで新たな取組を行うことと理解している。この新たな取組で、関東学院大学のある教授との連携とあるが、人の構成などをしっかりしておかないと任せっきりとなったり、活動がうやむやになってしまう

と思われる。そこで、ほかの公園での実績を確認したい。

(応募団体) 最初は応募団体も関わる。将来は自立して活動してもらうのが理想である。教授は、公園を活動拠点とした市民活動を研究の主題とされている。自立の過程も研究対象となっている。この教授はコンサルタント会社に勤務経験があり、教授に転身してからフィールドワークの環境を探していた。今回、応募団体とははじめての取組である。

(委員) センター長は5年以上の実務経験、造園土木施工管理技士又は公園管理運営士と書いてあるが、どのような資格者が配置されるのか。

(応募団体) 現在のセンター長が5年以上の実務経験を有し、かつ1級造園土木施工管理技士の資格を有している。今後、公園管理運営士も取得見込みである。

(委員) 令和元年の大雨のときの復旧対応は、どうだったか。

(応募団体) マニュアル通りの対応ができた。いつも公園を利用しているボランティアで清掃活動などに積極的に協力してくれたため、早く復旧できた。そういう意味では、市民との協働もできていると感じている。

(委員) 県民と協働したソメイヨシノの保全・更新とある。活動にどの程度を期待しているのか。

(応募団体) 桜は公園の外側にあるが、長期的に管理が必要であるため、指定管理者が変わっても管理を継続し行けるように、知識・経験等をお伝えしつつ県民と協働したい。

(委員) 県民との協働自体はいいことだが、一般の方に桜の管理を委ねるのには、限度がある。指定管理者と県民との役割分担をしっかりとしないと、うまくいかないのではないかと。

(応募団体) 現地のソメイヨシノは樹齢60年を超えるかなりの古木である。厳密に言えば公園の管理外だが、樹木医を講師に呼んで、市民に学習会で技術を伝授している。そういったことが、指定管理者としての役割ではないかと考えている。

(委員) 河川敷のソメイヨシノは劣化の具合がそれほどひどくないと思うが、実際はどんな状況なのか。

(応募団体) 現在の指定管理期間の7年間で数本のソメイヨシノを伐採せざるを得なかった。

(3) 山北つぶらの公園① 公益財団法人神奈川県公園協会

(委員) 交通の便で言うと車になり、近隣に臨時駐車場を設ける話があったが、実際に借り上げる予定があるのか。近くだと、御殿場線の山北駅になると思うが、公共交通機関からの送迎を行う予定はあるのか。また、もう一点確認で、一斉施設点検パトロールをやるとのことだが、年1回で大丈夫か。2回やらなくてもよいのか。

(応募団体) 公共交通機関は、御殿場線の山北駅もしくは谷峨駅からだが、かなりの距離がある。そのため、ほとんどの来園者はマイカーとなる。臨時駐車場の検討についてだが、今年のゴールデンウィークには、約2時間待ちの駐車列となったことがあった。3月にこちらの公園にアスレチックの遊具ができ、それがSNS等で皆さんに広まって、大勢の方がゴールデンウィークに来た。その時に2時間待ちとなったため、今の駐車場施設では足りない、繁忙期の時期があると考えている。候補地は決めていないが、山北町や地元のNPO法人である共和のもりといったところと協力しながら、今後検討していきたい。

一斉施設点検パトロールの関係だが、公園協会管理の全公園でやっている。職員が最寄りの公園に自宅から2時間以内に参集できるよう、参集訓練を年1回やっている。施設点検パトロールは、それぞれの公園の職員が勤務している公園とは違う公園に行き、違う視点で安全管理を見るもので年1回行っている。日常的なパトロールは、職員がきちんとやっている。

(委員) 管理運営関係で、健康増進は大事なミッションとなると思う。森林セラピーを題材に基盤づくりをされており、これは運営がとても大事になると思うが、森林セラピー運営協議会とはどのような調整を図っているのか。バイタルチェック、フィードバックを利用するというのが森林セラピーの基本にあるので、どのような基盤づくりを提案し、効果をもたらしていこうと考えているのか。

(応募団体) 山北町が森林セラピーを町の長期計画に位置付け、全国でも44番目に森林セラピーの拠点として位置づけられた。さらに私たちは、西丹沢ビジターセンターの管理運営を指定管理しており、ここの職員が、既に山北町で森林セラピーに取り組んでいる。この職員が看護師の資格を取得しており、ストレスチェックといった健康管理をしている。ビジターセンターとも連携しながら、公園内にもコースをつくり、町とも連携して、基盤づくりをしたい。

(委員) 入口からパークセンターまで距離があると思う。山の公園であり、健常者の利用が多いと思うが、障害者の方がお見えになった時にどう対応するのか。

(応募団体) 駐車場からパークセンターまで舗装道路を200メートルほど歩かないといけませんが、パークセンターには身障者用の駐車スペースがある。身障者が来た場合は、パークセンターまで車で入ってもらおう。必要な場合は車椅子の貸し出しをやる。

(委員) それは事前に予約が必要なのか。

(応募団体) 当日でも大丈夫だと思うが、あらかじめ連絡いただいたほうが、スムーズに対応できる。

(委員) インクルーシブな園内散策コースの設定とあるが、どういう意味なのか。

(応募団体) パークセンター周辺にお子さん用の遊具がある。2つの山頂があるが、比較的スムーズな園路ができている。子供も歩きやすいということで、親子で楽しめる公園と言われている。その部分でインクルーシブと言っている。しかし、谷の方に行く園路は、急峻になっているので、その辺りはきちんと分けて、ご案内したいと思っている。

(委員) この公園はアクセスが遠く、また駐車場も狭く、イベント時は渋滞するという課題がある。道幅も狭く引き返せないため、渋滞になったら待つしかないという厳しい状況だと思う。そこに関して、案内板や新しくハイキングコースを作るという非常に積極的な提案をしてもらったが、ハイキングコースは現在いくつあるのか。新しくいくつ作るのか。

もう一つお聞きしたいのが、「のろし上げ」イベントの開催とあり、非常に魅力的だが、これは共催か。公園でのろしをあげるのか。

(応募団体) 現在、大野山ハイキングコースが整備されている。新たに公園を起点としたハイキングコースを考えている。車で来た方がハイキングをしていく利用方法も考えている。そういった意味でも、繁忙期は駐車場が必要となってくる。公園に来られた方が、渋滞に巻き込まれて入れない、という視点もあるので、その点の対応を考えていきたい。

のろし上げだが、河村城址歴史公園で、既に山北町観光協会が取り組んでいる。河村城跡と山北つぶらの公園の鐘ヶ塚砦跡で、お互いにのろしをあげる。お城に造詣のある学芸員がいるので、意見聞きながら、また、今やっている町の観光協会とも連携しながら、取り組んでいきたい。

(委員) 現地に配置される有資格者の関係で確認したい。公園管理運営士1名、配置するというのでよいか。上級救命講習修了者3名とあるが、3名配置でよいか。

(応募団体) よい。

(4) 山北つぶらの公園② 株式会社アグサ

(委員) 利用者の増ということで、目標を毎年1,000人ぐらい増やしている。ゴールデンウィーク特別企画ということがあったが、このように利用者が多くなれば多くなるほど、駐車場の渋滞が増すと思う。その辺りの対策は、どのようになっているのか。

また、コンプライアンスの関係で、法定雇用の状況を教えてほしい。もし、不足しているということであれば、具体的な対策、またいつまでに雇用率を達成するといった具体的なものがあれば教えてほしい。

(応募団体) 駐車場は、ある特定の休日という期間は、非常に多くの利用者が車で来園される。その際、現状はスタッフの増員をして、事故のない安全安心な運営を心掛けている。今後、こういったことが常用になるのであれば、常勤という形で駐車管理を徹底し、駐車場界限での事故やケガを防止する予定で考えている。

(委員) 臨時駐車場は設けているのか。人員だけを配置するのか。

(応募団体) あの地域に火葬場があった。この夏は、そこを臨時駐車場にする予定で、県との話し合いで進めている。

(委員) そうなると若干渋滞は解消されるという可能性はあるか。

(応募団体) あると思っている。また、障害者の雇用について、2人採用が必要となるが、現

在は0.5人となっている。1.5人を不足しており、これについては、採用できる方がいれば採用できる窓口は開いている。現在は採用できておらず、負担金を払ってカバーしている。障害者の方が作られているアイスクリームがあり、それを扱う業者がいるので、会社で管理している日帰り温泉で仕入れて販売したい。あるいは、NPO法人が社会人で引きこもりになっている方の就職の斡旋をしており、1名採用している。その方はもう7、8年務めている。法定雇用には達していないが、そういう努力をしており、募集は続けていきたいと思っている。

(委員) 募集は続けるということで、求人は出しているのか。

(応募団体) 出している。社労士が顧問にいますので、相談しながら対応していきたいと考えている。

(委員) おんりーゆーはいいところだが、あのような施設で、うまく短時間の雇用などに繋がると良いと思う。

(応募団体) そういったところで雇用していきたい。

(委員) 維持管理のことを伺いたい。芝生エリアのあり方は、すごく大事になってくる。景観としての品質を保つということと、安全安心ということの両立ということで、提案書に記載があるが、管理計画を見ると、機械刈りが年3回から4回でこれは普通だと思う。機械ではなく抜き取りも年3回とあり、全体の5%と位置付けられているが、この理由がよく分からない。品質を保つ、安全安心を担保するということがあるが、管理は、通常の範囲で手抜き除草は全体の5%の範囲しかやらないとなっており、その辺りの理由を教えてください。

(応募団体) 芝生の管理については、南足柄市内のパークゴルフの芝生の管理をしており、そういった経験を踏まえた実績がある。年間の維持管理の回数の部分は、あくまで暫定であり、状況によっては増やす予定となっている。人力除草は、先程の話に戻るが、状況によっては障害者の雇用も検討している。芝生の管理に関しては、我々は清掃事業を持ち合わせていて、ロボットにより、電動でできる芝刈り機があるので、それによる管理も検討の一つとしている。

(委員) パークゴルフの実績があり、それについては理解した。人力除草については、面積が全体の5%という意味でよいか。なぜ5%だけでよいのか。全体を網羅しないのか。

(応募団体) 面積が全体の5%という意味でよい。表現の問題はあるかもしれないが、植栽管理が、本来主であるので、そこ以外はやらないことではない。今も委託を受けて、草刈は十分やっている。芝の部分だけを表現したものと受け取ってほしい。

(委員) 芝生全体の目配りをしているということでよいか。

(応募団体) そうである。十分、今の管理で行き届いているという解釈でいる。ロボットを入れるというのもある。効率化も考えている。

(委員) 開園したばかりで、アクセスと周知が、課題と思っている。アクセスについては、他の委員からも確認があったが、ハイキングコースについて、看板を立てるなど、ハイキングをする方に向けた何か提案はあるか。また、利用促進の面で、周知の取組があれば教えてほしい。

(応募団体) 看板は考えているが、山北町や観光協会と連携を組まないと、地域活性化にはつながらないと考えている。今後は、地域全体で交流人口が動くポイントを抽出した上で、看板を立てていきたい。

(委員) 公園をゴールにして山北駅から歩くと、どれくらい時間がかかるのか。

(応募団体) 1時間弱で行ける。公園の周知については、SNSを多様化することがベーシックになると、現状考えている。所管である県西土木事務所がツイッターで発信しているが、そこは継続しながら、インスタグラムもしくはYouTubeといった動画で発信していきたいと思っている。YouTubeについては、丸太の森の事業により、インフルエンサーとのつながりがあるので、そういった方々の活用も検討できると考えている。

(委員) バーベキュー場について、事業計画書の収支計画が見つからなかった。また、自主事業の記載の中でも、検討、調整という表現があった。初年度に実施開始できる見込みはあるのか。収支についても、ある程度見積もりを立てているのか。また、財務状況について、毎年、経常利益は黒字ではあるが、一方で、例えば、令和元年度に、温泉の権利を大きな損を出して売っている。令和2年度は、長期借入金が増えている。そのほか、有価証券の売却益が出ている。その割に新しい固定資産を買うなどの投資の形が見えていないので、何か資金が必要な理由があったのか。

(応募団体) バーベキューやるとしても、現在はバーベキューの場所を提供するというくらいで、収支ということは特に考えていない。

(委員) 場所を提供するとなると、指定管理者による管理もあるし、使用料もあると思うが、どうなっているのか。

(応募団体) 貸すという決断をすれば、そういったこともあるだろうが、今のところ、食材の提供などは考えていない。やるとしても食材は持ち込んでもらい場所を作っておいて利用してもらおうということになる。ただ、職員について、日中はいるが、夜間は無人になる。山火事などのことを考える必要もあり、これまでの県の担当者はバーベキューのことも話していたが、今は検討しているという段階で、自主事業として利益を出すまでは考えていない。

(委員) 去年、県の担当者は、バーベキュー場を希望していたのか。

(応募団体) そういうことは良いのでは、というやりとりはあった。その頃に、遊具なども増えて、お客さんも増えた。お昼などにバーベキューをすれば楽しめると思うが、安全や防災上の管理面で懸念がある。自前で食材を提供するとなると、色々な条件が出てくるので、できない。有料遊具については、丸太の森での管理経験があるので、お客さんにアンケートをとって必要が

あれば、指定管理の初めの2年ぐらいの間で実施を考えていきたい。選択肢として考えている。また、財務の関係だが、資産の中で含み損があったので、スリム化という考え方があり、営業利益まで出していながら、その利益で含み損を相殺していくという考え方でやってきた。温泉の権利を売却したと言っても、1,600メートル掘った温泉で、非常にお金がかかった井戸があったが、もう一本の浅いところの井戸があるので、売却損を出して内部留保という形をとったものである。キャッシュアウトを防ぐ、長期借入分、債務を圧縮していくということが課題であったことから、あえて売却をした。現在は売却した井戸は借りてはいるが、あまり使っておらず、他の井戸を使っているので、営業上の支障はない。去年、借入が増えているが、現預金は増えている。これは、コロナの影響で見通しが立たなく、不測の事態に備えるために、運転資金を用意、手持ちの流動性を厚くという形になっている。設備投資ということは当然なくて、どこに資産が増えているかと言えば、現預金が増えている形だ。

(委員) 温泉施設を持っているが、コロナの状況はどうなっているのか。

(応募団体) 売上は、コロナの前年より極端に減ったが、最初から見通しは立っているので、経費の節減を徹底し、各種補助金を受け、売上を減らしても、前の期より経常利益は上回っており、健全には終わっていると言える。

(委員) 提案書に山北つぶらの公園安全マニュアルを作成するとあるが、どのようなマニュアルか説明してほしい。

(応募団体) 緊急事態に備えたものであり、特に丘陵地ということで地滑りや倒木といったことも考え、現地に利用者がいた場合を想定し、マニュアルを作成している。社内の方でも危機管理委員会という委員会があり、想定できる危険な部分を抽出して、それを回避できるのか、想定して準備をしている。災害の芽を摘むというのを一つキーワードとして運営をしている。

(委員) 現在は、業務委託で管理していると思うが、今はこのマニュアルはないということでよいか。

(応募団体) ここに記載したものよりも、もう少しソフトなものという形になる。県の方からどういった業務をやるかという仕様が来るので、これに合わせて何をやるかということを出して、日報でお互い管理している。何かあればその都度解決していくという形で進めている。

(委員) 有資格者についてお聞きしたいが、管理運営関係の資格者は、どのような資格を持った人を現地に配置する予定か。

(応募団体) 現在5つの指定管理を行っており、その中で管理運営を経験してきた経験者という意味で記載している。刈払機やチェーンソーの資格を元々持っている人がいれば、講習を受けてもらって資格をとってもらおう。本社には、1級造園士や技能士もいるので、支援体制がある。

(委員) 現地に、一級造園施工管理技士を配置するというわけではないのか。

(応募団体) タイムリーに本社としてカバーしていくことで考えている。コスト面からなかなか配置はできない。

3 協議について

2の内容をもとに応募団体の提案等の評価を決定するための協議を行った。

以上